

NEWSWAVE

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

発行

村田健二税理士事務所

〒720-0825

広島県福山市沖野上 5-29-27 大黒ビル 2F

TEL(084)959-3605 FAX(084)959-3606

**所得税の申告漏れは 8785 億円
重点的・集中的な実地調査を実施**

国税庁によると、個人に対する今年 6 月までの 1 年間 (2015 事務年度) の所得税調査は、65 万件行われ、そのうち 39 万 6 千件 8785 億円の申告漏れ所得を見つけた。その追徴税額は 1074 億円、1 件平均 135 万円の申告漏れに対し 17 万円を追徴した。

実地調査における特別調査・一般調査 (高額・悪質な不正計算が見込まれるものを対象に行う深度ある調査) は 4 万 8 千件を実施、うち 4 万 2 千件から総額 4522 億円の申告漏れ所得を見つけ、746 億円を追徴。件数では 7.4% に過ぎないが、申告漏れ全体の 51.2% を占めた。調査 1 件あたりの申告漏れは 941 万円と、全体の平均 135 万円を大きく上回る。

また、実地調査に含まれる着眼調査 (資料情報や事業実態の解明を通じて行う短期間の調査) は 1 万 8 千件行われ、うち 1 万 3 千件から 722 億円の申告漏れを見つけ、52 億円を追徴。1 件あたり平均申告漏れは 402 万円。一方、簡易な接触は 58 万 4 千件行われ、うち 34 万 1 千件から 3542 億円の申告漏れを見つけ 277 億円を追徴。1 件あたりの平均申告漏れは 61 万円だった。

実地調査トータルでは、6 万 6 千件の調査を行い、5243 億円の申告漏れを見つけ、798 億円を追徴。つまり、実地調査件数は全体の 10.2% に過ぎないが、申告漏れ所得全体の約 6 割を把握しており、高額・悪質な事案を優先して調査を的確に実施する一方、短期間で申告漏れ所得等の把握を行う効率的・効果的な所得税調査が実施されている。

**サイドメニュー戦略で業界 2 位の「くら寿司」
あえて「牛丼」で狙う潜在的マーケットとは？**

現在、回転寿司業界で注目を集めているのが、5 年で 309 億円の売上増を達成し業界 2 位に躍り出たくら寿司だ。成長の秘密はサイドメニューにある。「シャリカレー」や米麴入りの「シャリコーラ」といった一見奇抜なものから、「すしやのうな丼」などの正統派、スイーツまで 40 種以上が揃う。客単価アップに貢献しているのはもちろん、ファミレスより安価な設定も絶妙で、平日昼間に学生や主婦を集客することに成功している。

そんなくら寿司で 11 月 4 日に登場した新メニューは、なんと「牛丼」(370 円)。大手 3 社で合計 4000 店舗以上もある超激戦区で、価格も同 3 社の並盛りは 350~380 円とさほどお得感もない。なぜあえて牛丼を選んだのかを追求していくと、

くら寿司の緻密なマーケティングに気付く。

実は、牛丼チェーンには決定的に弱い客層がある。それが、ファミリーだ。女性の取り込みには成功しつつあるが、ファミリーがゆっくり食事できる雰囲気は、残念ながらまだない。その点、回転寿司はそもそもファミリー層との親和性が高い。「牛丼を食べたかったけれども、店に入りづらかった」客層を取り込める可能性は十分にある。別業界の欠点に目をつけ、自社の既存の客層へ食欲に訴求するための新商品開発に生かしているくら寿司のマーケティング。別業種・業界でもぜひ参考にしたい事例のひとつではないだろうか。